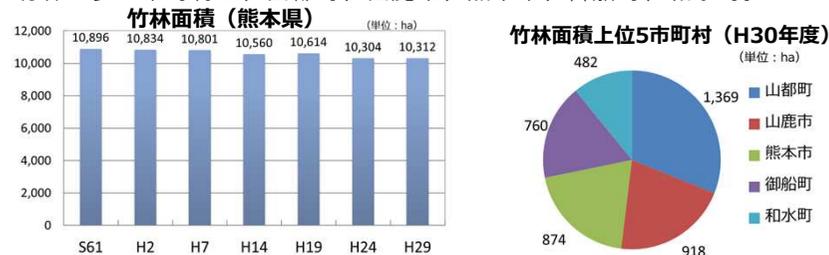


I 竹資源の現状と課題

- ◇全国の竹林面積は約167千ha（平成29年度末約167千ha）で増加傾向
- ◇一方、県内の竹林面積は、約10千haであり、横ばいで推移
- これは、**本県がたけのこ・竹材生産の先進地**であることによる影響が大きい。
- ◇なお、竹林の多い市町村は、山都町、山鹿市、熊本市、御船町、和水町。



II 竹産業の現状と課題



- ◇本県生産量は、2,863 t（全国第3位）
- ◇全国的に生産量が減少傾向である中、本県は横ばい。



- ◇本県生産量は、264千束（全国第2位）
- ◇全国的に生産量が減少傾向である中、本県生産量は増加傾向



このような中・・・

竹産業界にかかる新たな動き

たけのこ

- ◇ 中国産たけのこ輸入量が減少（H20中国産毒入り餃子）し国産たけのこ需要が増加
- ◇ 99%輸入のメンマを国内生産する新たな動き

竹材

- ◇ 竹の新たな需要（竹紙・建築原料・燃料）の出現
- ◇ 竹をつかった新しい魅せ方（竹あかり）



新たなチャンスが生まれるも生産現場は対応できない状況

第59回全国竹の大会熊本県大会 (H30.11開催)を契機に機運の高まり

- ◆以下の課題
 - ◇管理が追いつかない竹林の増加
 - ◇伐竹労働力の不足
 - ◇伐採搬出経費 > 売上

III 令和3年度「食べる竹・使う竹・魅せる竹生産支援事業」

1 これまでの事業

◇生産者等が自らたけのこ園や竹材生産林を整備



課題

- ◆生産者等が自ら3戸以上のグループを作れない（高齢化・不在村化）
- ◆竹林の所有者不明地の増加
- ◆高齢化等により竹林伐採の労働力が足りない

2 令和3年度食べる竹・使う竹・魅せる竹生産支援事業

(1)たけのこ・竹材担い手育成支援事業

◇意欲ある事業主体が地域の竹林所有者3戸以上の所有林を対象として行う竹林整備（集約化）に係る経費の支援

- ①竹林整備計画の作成
- ②竹林整備
- ③伐竹機械等の導入（リース・レンタルに限る）
- ④道の整備



たけのこ

- 園地内に道が入る →車両系での運搬が可能に →たけのこ生産の省力化

たけのこ園地・生産量増加

竹材

- 荒廃竹林に手が入る →資源循環の加速化 →竹材の短伐期施業が可能に

竹材生産量増加

「担い手育成」「生産性・量UP」

& 「荒廃竹林の解消」

荒廃竹林解消

* 熊本県生産量 全国シェア拡大 *
多様な竹需要への対応による竹産業の振興

* 県土の適正な利用へ *
宅地や農地への侵入阻止、崩壊防止

